

オバマ大統領を支える戦略家たち パート2



1. Emanuel

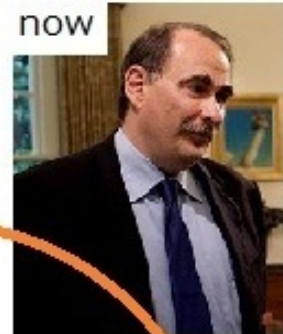
White House Chief of Staff

2. Rouse



Campaign mgr

now



① Axelrod

3. Daley



Senior adviser



② Plouffe



4. Lew



オバマ大統領を支える戦略家たち:パート2

私がオバマ大統領に拘ったブログを書く理由は、さらに 4 年オバマの時代が続くと思っており、日本の今後のために彼らの戦略を正しく掴まなければならないと考えているからだ。

私は外交官でもなければ、ジャーナリストでもない。

みなさんと同じ素人と言って良い。

したがって、私の分析を戯言(ざれごと)と受け取っているかもしれない。ワシントン特派員の記事の方がはるかに信頼性があると思うかもしれない。

しかし、よく考えて欲しい。

日本メディアのアメリカ報道は、AP とかロイターなどの外信が多いことを知っている。

さらに、一体、どれほどの在米メディア駐在員がいるのか想像して欲しい。

彼らの記事も、ニューヨークタイムズによればとかウォールストリート・ジャーナルによれば、というものが多くにも気付いているだろう。彼らの情報源の大半も現地の代表的なメディアなのだ。

インタビューできるではないかとの指摘があると思うが、実はこれが曲者なのだ。

インタビュー相手の情報にも限度がある上に、少人数の特派員の数で裏づけが十分取れる取材などできる訳がない。

みなさんが、知性の高いアメリカ人が読む代表的なメディアで信頼を置けるジャーナリストの書く記事を丹念に読むなら、日本メディアを通じる以上のはるかに精度の高い情報を得ることができる。

勿論、ドット(情報)と回帰直線(シナリオ)の関係を踏まえて記事を読むことが前提である。

「オバマ大統領を支える戦略家たち」の閲覧数は比較的多い。みなさんの興味が大きい分野と判断している。

今日(2012年2月22日)のブログ「お金を払って読むジャーナリストのメンタル・モデル:あっ、この顔は」にオバマ政権内の人間関係に焦点を当てた興味深い記事を全文紹介した。

それを読む上で、今年になって書いた戦略家たちに関連するブログが理解を助けるのではと考え急遽まとめたものである。

タイトル毎に、日付と URL を付記したので、リンクを読む時はブログサイトからお願いします。

2012年2月22日記

「外交力とインナー・サークル: 東大にルートは？」(2012.01.16 Monday/)

<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=732>

皆さんが見るものにはダウンロード数はあっても閲覧数はない。閲覧数と実際に読んだ人の数はイコールでないことは承知だが、「[オバマ大統領を支える戦略家たち](#)」の閲覧数が際立って多い。アリッサの顔写真のせいでもないと思うので、その後の戦略家たちの動きについて補足する。ちょっと長くなる。日本にはこんな報道ないから、読む価値あると思う。

年が明けた1月9日、ホワイトハウス主席補佐官の変更があった。今度の主席補佐官は、ジャック・リューである。オーザックの後の財務統括部長として“戦略家たち”に登場した。ヒラリー・クリントン国務長官の右腕で、手放すのを嫌がったという実力者である。“戦略家たち”は、シカゴ市長になったエマニュエルが主席補佐官であった時までである。実は、今回で4人目の主席補佐官である。



1. Emanuel

White House Chief of Staff

2. Rouse



Campaign mgr

now



① Axelrod



3. Daley



Senior adviser

② Plouffe



4. Lew



ダーレーの辞職は、昨年秋以後、揉めに揉めたグランド・バーゲン (grand bargain) 失敗の責任を取ったものと噂されている。

「[Lew to Replace Daley as White House Chief of Staff](#)」(January 9, 2012)

グランド・バーゲンとは、今後 10 年間で総額 400 兆円にのぼる財政削減と経済活性化のための増収策(これに 1%の富裕層の税率アップがあった。)を同時に推進するオバマ大統領の政策提案で、ペーナー下院議長 (John Boehner: House speaker as majority leader) も一時同意した。



しかし、下院の僅か 10 数名に過ぎないティー・パーティー(Tea Party)の支援を受けて当選した共和党员が激しく抵抗して似ても似つかぬものになった。

昨年末、200 万の失業者に対する給付金が途切れるかどうかで大騒ぎになった。ここでも、共和党は富裕層への税率アップ提案を引っ込めれば、給付金の延長を認めると“失業者を人質”にした戦略を取った。結局、2 ヶ月間の延長だけは合意され、失業者は何とかクリスマスを迎えることができた。

詳細は省くが、この 2 ヶ月延長についてもペーナー議長の発言は揺れに揺れて、ティー・パーティー議員を抑えられない指導力のない議長という評価が広がった。今年の大統領選を前にして、ペーナー氏自身も大変難しい立場に立たされている。

Pete Rouse

2 代目のピーター・ラウスについて日本では殆ど知られていない。エマニュエルと今回辞めるダーレイの繋ぎとして僅か 2 ヶ月間のことだったからだ。

ところが、このラウスは、とんでもない実力者である。

どうも、表に出るのが嫌いな人らしい。

生涯独身で猫と暮らしている。[おばあさんが日本人という出自](#)。

オバマ大統領は、彼に繋ぎ役を頼んだのではない。正式就任を固辞したので結果的に繋ぎになったのだ。

ブログに書いた記憶はないが、エマニュエルは、「君、30 秒で、私にどんなことをしてくれる」というガンガン要求派タイプ。彼の前では誰もが緊張するそうだが、ラウスになった途端にホワイトハウス全体が和やかになって、誰もが自由に意見を言えるように

なって効率が上がったという。

今回のリ्यूの主席補佐官就任に当たっては、仕事の 1/3 はラウス行う役割分担になる。

この間、上級アドバイザーのアクセルロッドが、オバマ大統領二期目を狙うキャンペーンのためにシカゴに戻り、その代わりにブラウが上級アドバイザーになった。

ラウスとオバマの出会いは、アクセルロッドやブラウよりも早い。ラウスがアドバイザーをしていたイリノイ州の上院議員が議員生活を止め、上院議員を目指したオバマに請われて彼のアドバイザーになったのである。

2008 年、オバマ上院議員が民主党大統領予備選挙に出る前に、ラウスとアクセルロッドはそのことで話し合っているが、ブラウの参加前のことだ。

オバマが大統領に選ばれた一ヶ月前のラウスのインタビュー記事がある。ラウスがオバマ大統領をどのように見ているかがわかる貴重なものである。

When things don't go well, I've never seen him lose his temper or blame someone other than himself for circumstances. He's very focused on: "OK, that didn't go well. Let's figure out why and move forward."

物事が上手く行かない場合でもかんしゃくを起したり、他の人を責めるのを見たことがない。常に、「上手く行かなかった理由を考えて前に進もう」という具合に前向きだ。

I think his instincts, both on politics and even on issues, have been the strongest of anybody in the operation -- not always right, not always 100 percent on target, but consistently his instincts have been very good, and I think that bodes well for how he'll be as president.

政治でも何でも、彼の本能的な感はチームの誰よりも強かった。何時でも正しい訳でも、100%目標を外さないということではないが、本能的な感は何時でも一貫して素晴らしいものがある。私は、いい大統領になる資質を持つ人と捉えた。

And the third thing is, ... some of us wondered at the beginning, how hard was he going to work at this? ... But he has worked his tail off. He's been very disciplined and very focused. So I think it's really his instincts, his competence under pressure and his work ethic that have impressed me in this.

三つ目は、最初は誰もが懸念したのだが、この選挙戦でどこまで懸命になれるのかなということ だった。最後までやり切った。強い規律と集中力を見せてもらった。私は、それは彼の本能的な強さであり、大きなプレッシャーを乗り越える自信と物事をやりぬ

く意欲の表れなのだと感服した。

[Interviews - Pete Rouse | The Choice 2008 \(October 14, 2008; updated December 18, 2008\)](#)

最初の写真をじっくり見ることだ。

ラウス、アクセルロッド、プラウはオバマ大統領のインナー・サークル(inner circle)の中心にいる。



彼らが、関係関係との政策のすり合わせを行い、議会との妥協点を探る任務を背負

っている。オバマ政権内からのリーク情報は殆どなく、メディア泣かせである。それは一重に、ホワイトハウス内部の結束の固さ、そして中心にいる彼らの内政、外交、軍事、財政、経済のすべての分野に及ぶ閣僚とのコミュニケーション能力があるからである。戦略に一貫性がなければ、リークに類することは必ず起こるし、政権内トラブルも起こる。

民主党(日本の)が政権に就いた時、オバマ政権とのルートがないということが盛んに心配された。それ以前の小泉-ブッシュの関係が蜜に見えたからという理由もあろう。しかし、外交におけるコミュニケーション力というのは、大統領、或いは閣僚との関係だけでなく、インナー・サークルに対するアクセス力も含まれる。

外務省は東大そのものだ。頭も良いし、ワインの味も知っている(前世から引き継いだ皮肉だが、読む人は何のことか知らないか?)紳士たちである。しかし、オバマ上院議員が大統領になる過程を彼らが熟知しているかどうか疑問はある。政権を動かす表に出ない人たちがいることは知っていても、インナー・サークルと関係を持つのは殆ど不可能であろう。ラウス、アクセルロッド、プラウの経歴を知れば知るほど、東大とは縁が遠いことがわかるからだ。

オバマ大統領の誕生直後、ウズベキスタンだったかカザフスタンだったか覚えていないが、プラウに講演を依頼した。講演料が500万円だ。プラウ個人の懐には入れなかったが、ホワイトハウス入りしなかった彼を利用してインナー・サークルとの接点を作ろうとした戦術である。

外務省がやれば露骨に過ぎるが、彼の著書、[Audacity to Win](#) は政治学というよりマーケティングの本だから、それこそ東大が経営学にかこつけて講師に呼べば良かった。それが、外務省、或いは“志ある”(皮肉)政治家が取るべき戦略というものだ。それでインナー・サークルとコネができるかどうかは先の話。投資だ。

そういう発想のない東大、みんなどうする？

ところで、そのプラウだが、民主党全体の選挙を見るようオバマ大統領に頼まれたにも関わらず、中間選挙はボロ負けした。

その状況は、[「英語力向上の秘訣」](#)の実践版である「[女性のための英語\(22\):緊急特集-オバマさんが大変](#)」にある。

その後、アクセルロッドと交代でホワイトハウス入りしたが、メディアへの露出度は極

端に少なくなった。

アクセルロッドがいみじくも言っていたが、とにかくワシントンの腹の探り合い、嘘、メディアのつまらないことを事件にする騒々しさに辟易したそうだ。それを横から見ていたプラウも慎重にならざるを得なかったのだろう。

新年早々、そのプラウの“らしさ”が覗かれる記事があった。

翻訳はしない。日本語は解説と私の見方だ。

[「Obama Takes Aim at Congress to Hurt His G.O.P. Rivals」](#) (January 5, 2012)

Upon the president's return from Hawaii, the Obama campaign this week unleashed a carefully scripted and deliberately aggressive strategy that showed a White House in combative re-election mode as the president and his advisers sought to ensure that the Republicans did not get all the political limelight. Mr. Obama inserted himself into the media blitz of what was supposed to be an all-Republican show, the Iowa caucuses, when his campaign took out a huge advertisement on the home page of The Des Moines Register on caucus day and he spoke by video conference to Democrats gathered in the state.

“The Republican candidates are leaving Iowa. But their terrible plans are here to stay,” was the declaration that greeted readers who went to the newspaper's Web site to get caucus updates.

民主党は予備選がないから、メディアは共和党の予備選ばかり取り上げる。それでは不利なので、予備選の行われた州の党大会 (caucus) を報道するメディアを狙い撃ちしたオバマの広告戦略だ。

「共和党予備選候補者は去っても、彼らのお粗末な政策はこの地に居残る。」

On Wednesday, after waiting until the dust in Iowa had settled, clearing out space in newspapers and on television, Mr. Obama delivered another jab, announcing four recess appointments, including that of Richard Cordray as head of a new consumer protection agency, despite Republican opposition. On Thursday, the president went to the Pentagon and outlined a new military strategy that embraces hundreds of billions of dollars in cuts to what is a Republican sacred cow, and made it clear that American ground forces would no longer be large enough to conduct prolonged, large-scale counterinsurgency campaigns like those in Iraq and Afghanistan. On Friday, he will take a victory

lap with Mr. Cordray in a visit with the staff of the new Consumer Finance Protection Bureau.

共和党を挑発するジャブの連続だ。

「共和党の反対で、埋まらない四つの重要ポジションを議会在休会中に決める。」と。国民が期待する新設“消費者保護庁”長官に指名したりチャード・コーディと(勝手な)ウィニング・ランを行った。(共和党は頭にくる。)

さらに、ペンタゴンを訪問して、10兆円規模の軍事費削減計画の概要を述べ、イラクとアフガニスタンの地上軍は長期の大規模対ゲリラ戦はできないと明言した。共和党にとっては“神聖で犯すべからず領域”に土足で踏み入る。(これも共和党は頭にくる。)

David Plouffe, one of Mr. Obama's senior political advisers, has argued in meetings at the White House that Republicans will overreach in their efforts to oppose the president's initiatives. And administration officials believe that is what House conservatives did in the case of the payroll tax cut, with the Tea Party wing of House Republicans initially balking at a compromise deal that Senate Republicans had signed on to and sparking a backlash in the public. The refusal of Senate Republicans to allow many of Mr. Obama's nominees to be confirmed, White House officials believe, could also end up hurting the Republicans, if it feeds the notion that they are standing in the way of the business of government. "It is a matter of fact that the contenders for the Republican nomination have all endorsed and adopted the position espoused by the House Republicans" in the recess appointment battle, a senior administration official said on Thursday. And that, administration officials have concluded, puts Mr. Obama at an advantage as he seeks to establish a narrative this year of him as the defender of middle-class Americans and the Republicans in Congress of the rich.

So in the next few weeks, there will be more executive initiatives that will portray the president as refusing to wait on a hostile Congress to take action to help Americans, officials say.

共和党はやり過ぎた。自らの墓穴を掘っている。これまで、共和党の反対でできなかったことを大統領がやれば、共和党予備選候補は、オバマ大統領をけなす。けなせばけなすほど、自分たちが過去3年間にやってきたことが有権者の目に明らかになる。

“中間層を守ろうとするオバマ大統領と守ろうとしない共和党”

相手自らが差別化してしまうことになるいかにもブラウらしい選挙戦略だ。

それが、この記事の冒頭の文章だ。

Just three hours after President Obama announced that he was defying Congressional Republicans to fill a high-level regulatory position while lawmakers were out of town, Mitt Romney sent out the obligatory news release ripping the president. "Chicago-style politics at its worst," Mr. Romney fumed, accusing the president of "circumventing Congress." The statement was just what the White House wanted. It put the Republican presidential front-runner squarely on the side of the Republicans in Congress, a group with toxic poll numbers that the president's campaign hopes will hurt his rivals for the White House.

ロムニーが反射的に、「議会在ないがしろにするシカゴ・スタイルの最悪政治」と怒り狂えば、狂うほどホワイトハウスの思うつぼ。大統領選挙の相手は議会で はない。しかし、共和党の予備選トップ・ランナーが怒れば、共和党大統領候補は、3 年間オバマの政策に反対して国民をないがしろにしてきた議会の共和党と 同じということが浮き彫りになる・・・なるほどね。

中間選挙の完敗から、学んだものも多いのだろう。

ここまで我慢に我慢を重ねて、選挙年年頭の第一攻撃。しばらくはこの戦術が繰り出されるようだが、新聞に見抜かれたら、その時点で次の別の戦略を持っている筈だ。相手だってバカじゃないから何時までも同じ手は使えない。

日本の新聞には、軍事費削減を心配する社説もあった。

あのね、オバマ大統領は利口なの。共和党と妥協する柔軟さは持っている。

去年は、共和党が失業者などを人質に取って、オバマ大統領に譲歩を迫った。それは、それは酷いものだった。お陰でオバマ大統領の支持率は極端に下がった。

今度は、オバマ陣営が軍事費などを人質に取って共和党から譲歩を引き出すと同時に二期目を確実にする番なのだ。

東大、がんばれ。インナー・サークルの戦略を正確に読みきらないと駄目だ。

エリートだからね。名も地位もある奴だけ頭に入っているのだろうが・・・。

ワシントンの[「全然有名じゃないけど最も力のある 25 人」](#)のトップにオバマ大統領の日程を決めるアリッサ (Alyssa Mastromonaco) が挙げられ、その他にもホワイトハウスの若いスタッフが何人かいる。そこまで気を遣おう。

東大讃歌！

「トヨタいじめ:大前研一氏の Op-Ed 分析」(2012.01.22 Sunday/)

<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=736>

やっと決着ついた。発生から実に 2 年 3 ヶ月。



Members of the science committee said that despite its shortcomings, the safety agency had done all that it was capable of doing to determine why Toyotas were suddenly accelerating out of control and causing serious accidents. They concluded that the agency had correctly closed its investigation after failing to find evidence of defects in Toyota's electronic throttle systems.

[「Road Safety Agency Is Urged to Add Expertise in Electronics Systems」](#)

(January 18, 2012)

The National Academy of Sciences was asked to review procedures at N.H.T.S.A. after the agency's investigation of unintended acceleration of Toyota vehicles and a possible link to electronic-control systems. The Japanese automaker recalled more than eight million vehicles worldwide in 2009 and 2010 to fix sticky accelerator pedals or replace faulty floor mats that Toyota had claimed could cause unintended acceleration.

フロアマットがアクセルに絡み付いて戻らなくなるってのが、どうしてもわからない。純正しか使ったことがないからだが、カーペットみたいな分厚いものを使えばそうなることもあり得ると知り合いが言っていた。しかし、それは消費者の責任だろう。(トヨタは当初、そう言って、それもまたトヨタ叩きの材料にされた。)

NAS と NASA が強力な磁場を作って実験したことは以前のブログでも書いたし、「[GM 再建とトヨタ潰し](#)」にある筈だ。

苦しい言い訳がこれだ。

A branch of the National Academy of Sciences reported Wednesday that federal safety regulators lack the expertise to monitor vehicles with increasingly sophisticated electronics.

「GM を有利にするためのでっちあげ事件でした」と書ける訳がない。せいぜい、努力してください。

[Sonic のブレーキパッド入れ忘れ](#)るくらいだから GM はどうだか知らないが、製造業のまともなところは、エレクトロニクス回路に想定外の大電流や磁場の発生にはもの凄く敏感で、そんな試験はどこでもやっている。

ウェブセミナーや「[イノベーションのメンタル・モデル](#)」の謝辞にあるちっぽけな“ペルチエ素子”の開発でも、水分の浸入や回路断線の原因となるかもしれない磁場、大電流、信じられないほどの落下衝撃試験等々、嫌というほど繰り返して開発した。

もちろん、そんなことやらないとんちんかんな会社もある。そんな会社は淘汰される。やったって淘汰される場合もある。それが、ビジネス(マーケティング)の厳しさなのだ。株主至上主義(市場原理主義と同義といって良い)の問題はここにもある。

利益、利益と迫られるから、想定外の実験設定レベルが低くなる。時間と費用が掛かるからだ。その結果、びっくり仰天が起こる。

福島第 1 については検討したことないから具体的には言えないが、基本的な問題の構図は同じだ。

私が論文「[イノベーションのメンタル・モデル](#)」で定義しているメンタル・モデルは、知識と思考パターンという狭義である。

それは感情と無関係。「食べログ」に関するブログで、有機、無機という言葉を使った。英語の訓練も無機であり孤独で辛いものだとも書いた。

したがって、この狭義のメンタル・モデルを使えば、書いたものから人の知識と思考パ

ターン(無機的な部分)の推測がつく。勿論、人は優しさとか冷たさとか諸々の性格(有機的な部分)があるから、人をメンタル・モデル(無機的な部分)だけで評価するのは間違いだ。

しかし、政治家、官僚、学者、評論家、メディアなどなど、公的な責任を負わなければならない職業にある者、つまり一般大衆に対して責任のある職業に好んで就いた者は、有機だけで事足りる訳がない。

有機を支える無機の部分に突出するものがなければ、そんな職業を選ぶこと自体が間違いなのだ。

志、志と唱える輩の信用できないのは、無機の孤独や辛さを知らないからだ。知っている者は、志などという言葉は使わない。目的を持ち孤独や辛さに耐えることが志の発露だからだ。達成できても謙虚に、「まだ足りない」と思えば続ける。志があると言ったところで何の役にも立たない。

「志を持って～を行います」と言う奴は、「私は意志が弱いので、できるかどうかわかりませんが、今の時点では～を行うつもりでがんばってみます」と言っているのと同じだ。大体、がんばりきれないでへたる。古タイヤと同じだ。信用できる訳がない。

「GM 再建とトヨタ潰し」に、大前研一先生の Op-Ed を紹介し、恥ずかしいと書いた。今、考えても恥ずかしい。

恥ずかしいというのは私の感情である。

訳のわからない若い連中が、国家戦略相にもっとも相応しい人と言っていたこと、そして、世界 27 位(日本最高位)の戦略家と言われているからだ。

もっとも、「戦略は、メンタル・モデルと関係がある」と言う程度に留まっているハメル教授(論文「イノベーションのメンタル・モデル」)を読んでいない人にはわからないだろうが)が第 1 位だから、どこまで信用できるランク付けかは不明。

アホらしくて、感情だけしか書かなかったが、今日はアホらしいという部分を補足する。メンタル・モデルに関係することだからだ。

あの Op-Ed は;「エレクトロニクスで制御されるエンジンのインプットとアウトプット数が大幅に増えたために、以前のようにエンジン全体がどうなっているかわかる人がいなくなった。トヨタの“カイゼン”方式ではもはや対応不可能」ということである。最後に、何やらエレクトロニクスと人間の関係みたいなどうでも良いことが書いてある。昔、どこかで読んだような・・・。

車は、「動かす、走る、曲げる、もっと曲げる、戻す。もっと戻す、加速する、減速する、ゆっくり止まる、急に止まる、エンジンを止める」という極めてシンプルな機械である。

それはエレクトロニクスが採用されようが同じことである。電子化されて空を飛ぶわけではない。

それぞれの動作を“ブロック”とする。この“ブロック”自体は変わらない。変わったら大変だ。曲げたのに戻ったら困る。

インプット、アウトプットが増えているのは、それぞれの“ブロック”の効率（燃費への影響、動作のスムーズさ等々）を高めるためだ。それぞれ独立した“ブロック”のインターフェースは誤作動の原因になる場合もあるから、この点に細心の注意を払う。ソフトもハードも同じ。細心の注意を払う。

それが、トヨタレベルの研究、生産技術、製造、すべてに流れる思考と行動のパターンなのだ。

それだけだ。

これが、製造業の本質だ。

ブロック内の、そしてインターフェースの“カイゼン”はエレクトロニクスで複雑になろうがなるまいが未来永劫必要なのだ。

これを知っていたら、アクセルを吹かしていないのに勝手に加速するなど誰が信じるものか。

あの Op-Ed を読んだ瞬間、大前先生は製造業というものを理解されていない、つまり知識が不十分なのだとわかった。単に、知識がないだけのことである。

もう一つ、昔のエンジン技術者の話を引用して、エンジンの全貌を知る人がいないという件だが、この方は想像力のない人だなあ〜と思った。

インプットとアウトプットが増えても、エンジンのはたらきを正確に掴んでいる人がいなくてどうするの。いますよ。当たり前じゃないですか。

複雑化—目視不可—理解不能というのは、単に話を聞いたエンジニアの想像力不足のなせる業で、それを鵜呑みにして Op-Ed に書くのかと驚いた。

大前先生は知識がないで済んだが、バカだなあ〜こいつと思ったのは、たしかスティーブ・ジョブズと共同でアップルを創業したとかいうソフトの超有名人が、「ソフトに欠陥あり」と書いたことだ。欠陥ソフトなら、そんなものは検査でわかるし、車が市販されることはない。ソフトだって、バグ検査はするだろうに、製造業の実験手順や検査基準を全く知らないバカと思った。「GM 再建とトヨタ潰し」には名前も書いてあるはず。

書くという行為は、大きなリスクを伴う。有機だけでホンワカしているうちはまだいい。

しかし、無機で分析されたら信用失墜する。

デジタルになって記録が後々まで残るし、容易にリトリーブ可能だから恐ろしい。

まあ、読む方がバカの内は大丈夫だ。

「Ms. Dowd, you will lose your friends : ダウドさん、友達失くしますよ」

(2012.01.23 Monday/)

<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=737>

“the president could get 70 or 80 percent of the vote anywhere but the U.S.”

Ms. Dowd, do you know why?

The world knows that Mr. Obama is a sensible person as president of the U.S. and any Republican substitute would cause more disaster to the world.

Thanks to that American-made “trickle down” globalization, our society got messed up, much larger social divide, only during six years after 1998. I don't blame you for this because it was our fault anyway. However, you are responsible for the Mid-term election because it became the major cause having delayed Mr. Obama's economic recovery plan, which has obviously affected the stagnation of world economy.

Ms. Dowd, the third round is going to be more important. If you help go back to the party of “trickle down”, you will lose all of your friends. I don't care whether you like or dislike Obamas but beg you to listen to the voice of the world. The U.S. is not standalone.

ダウドさん、“アメリカ以外ならオバマは投票の 70～80%獲得する”理由お分かりですか？

オバマさんがアメリカ大統領として分別のある人ということ、もし、共和党の誰かが大統領になったら世界をもっと悪くすることを知っているからですよ。

あのアメリカ製の“トリクルダウン”のグローバリゼーションのお陰で、1998 年からたった6年間で日本は社会格差が大きくなってめちゃくちゃになりました。これは、私たちの責任ですから責めません。しかしですね、中間選挙はあなたたちの責任ですよ。あれでオバマさんの経済再生計画が遅れ、世界経済の停滞 に影響したからです。

三度目はね、ダウドさん、もっと大事ですよ。共和党に戻す手助けをするなら、あなた、友人を失くしますよ。あなたがオバマ夫妻を好きか嫌いかはどうでもいいのですが、頼むから世界の声を聞いてください。アメリカがアメリカだけでなりたっているのではありませんから。

投稿に間に合わなかったので、誰かの目に留まるかと期待して。



共和党の大統領予備選挙の第3戦(サウスカロライナ州)で、2勝のミット・ロムニー氏を大差で破ったのが、ニュート・ギングリッチ氏(Newt Gingrich)。

ダウド女史(ピューリッツァー賞受賞のジャーナリスト)は、オバマ大統領夫妻が自分たちはアメリカの犠牲と言いつつ、ギングリッチ氏は、メディアのオバマ支援の犠牲者という犠牲者同士の戦いと揶揄半分でおバマ大統領夫妻を攻撃するコラムである。よっぽど嫌いらしい。以前は、ここまであからさまではなかったが、11月6日(大統領選挙)はもうすぐだから……。

「[Showtime at the Apollo](#)」(By MAUREEN DOWD: January 21, 2012)

コラムの出だしは以下ですが、Apollo は劇場、そして、[これを聴きながら](#)読むとわかり易いと思う。

"FOR eight seconds, we saw the president we had craved for three years: cool, joyous, funny, connected.

"I, I'm so in love with you," Barack Obama crooned to a thrilled crowd at a fund-raiser at the Apollo in Harlem on Thursday night, doing a seductive imitation as Al Green himself looked on.

共和党の予備選報道を見ているとこっちまで気が狂いそうになる。

ロムニー氏(投資会社をやっていてお金持ち。父親の遺産も膨大)は、税金の明細公開要望に対してムニャムニャとはっきりしない答えでごによごによ口を濁す。この人は、相当の嘘つきです。

また、今回勝ったギングリッチ氏は、歴史学者で下院議長を勤めたこともある人だが、保険会社や金融機関のロビイストとしてお金を作ったらしい。ロムニー氏ほど金持ちじゃないので、貧乏人の味方をひとつの売りにしている。これは、詭弁。

サウスカロライナの直前、今の奥さんと浮気しているのを二番目の奥さんが責めたら、“open- marriage”にしようと言ったとテレビでばらした。開放結婚というのは浮気 OK 結婚ということかね。それでも、サウスカロライナで大勝だからね。わからない国だ。

もうひとつ、サウスカロライナは特別の州ってことがある。

歴史的に、この州で勝った人が共和党大統領候補になるそう。白人至上主義の州だから。今回はオバマ大統領が相手だから、人種問題が色濃く影響している。その特殊事情は過去にないため、今回ギングリッチ氏が勝ったからといって、他の州で予備選を勝ち抜く保証にならないというのが一般的な見方のようだ。

日本の報道を補足する意味でこんなものを読むのはどうだろう。

[「Marianne Gingrich, Newt Gingrich's Ex-Wife, Reiterates 'Open Marriage' Claim In ABC Interview」](#)(Updated: 1/20/12)

Editorial

[「Mr. Gingrich's Deceptions」](#)(January 22, 2012)

オバマさんが勝ったとしても日本に対して厳しいが、こっちがきちんと理に叶ったことをやるなら交渉の余地はあると思う。しかし、共和党の誰がなっても理など通らないだろう。はちゃめちゃだもの。サーカス・アニマル(Circus animal)みたいなもんだ。勝手に、騒々しくて、飛び掛ってきそうで・・・。

そして、日本はまた市場原理主義の連中が幅を利かすようになる。

怖いんだ、実際。

どうするんだ、みんな。

関係ないってか？

「分水嶺を越えた: まっさかさまに何処へ?」(2012.02.04 Saturday/)

<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=745>

日本は分水嶺を越したそうだ。

まるで、この製造業の壊滅状態を暗示したかのようなタイミングだったのでびっくりした。

「[電機大手8社の4-12月期最終損益、4社赤字4社減益と壊滅状態](#)」(2012.2.3)



(素材提供者: 星野伸 撮影場所: 神奈川県)

「[石原慎太郎: 預言者に転生?](#)」に引用した石原慎太郎さんの「地球は滅びる」に対して、「石原氏の論点は、悲観論が多すぎる。もっと英知をだして、国家と人類の希望を語るべきだ。日本の潜在能力はこんなものではない。

そのためには、正しい歴史観に立ち、経済数値に明るい人物の登場が日本にも世界にも急務である。

GDPを世界一にする。円を基軸通貨にする。日本文明を世界文明の中核にして、世界を救う。」と書いた人がいる。

日本にとって「経済数値に明るい人物の登場が急務である」には賛成だが、「GDP と

購買力の関係”、“今の GDP と同じ額の輸出をするだけの材料(主に技術)”に関する知識に対する疑問を持つし、「日本の潜在能力はこんなものではない」の意味はわからない。新聞でもネットでこういうことをおっしゃる人がいるのは知っているが、日本の潜在能力って何なのですかね。

オバマ大統領の一般教書以来、アメリカで製造業ってそんなに大事なのか？本当に雇用を促進するのかとの論議が盛んである。

But the administration argues that big trends — like rising wages in developing countries, falling wages in America and a weaker dollar — have made moving work to or keeping work in the United States a much more viable option. And they say that manufacturers will continue to add jobs domestically, especially with a little help from Washington.

しかし、オバマ政権は、途上国での賃金上昇、アメリカの賃金の低下とドル安という大きな流れを見れば、海外での仕事をアメリカに呼び戻し、アメリカでの仕事を守ることは極めて可能性のあることと分析し、ワシントンのちょっとした手助けがあれば製造業は国内雇用を拡大すると言う。

We have a huge opportunity, at this moment, to bring manufacturing back,” Mr. Obama said in his address to Congress. “But we have to seize it. Tonight, my message to business leaders is simple: Ask yourselves what you can do to bring jobs back to your country, and your country will do everything we can to help you succeed.”

「現時点では製造業を国内に呼び戻す絶好のチャンスだが、それを実現しなければならぬ。ビジネス・リーダーに単純なことを伝えたい。仕事をアメリカに戻すために何が出来るか自分に問いかけて欲しい。そうすれば、アメリカはあなたの仕事が上手く行くようにどんなことでもする。」オバマ大統領は議会でこのように述べた。

[「White House Offers Plan to Lure Jobs to America」](#) (February 2, 2012)

オバマ大統領は、ドル安政策を採り続けると宣言しているのです。

日本の製造業の業績悪化は、決して地震や津波(タイも含めて)の所為だけではありませんよ。2008年の金融危機以来、アメリカは一貫してドル安を続けてきました。基軸通貨でなくなる、アメリカは終わりだと喜ぶ声もたくさんありました。

これは、オバマ大統領の就任以後一貫した戦略なのです。

「米国にドル安、円高政策を取られたら企業はお手上げです。このようなシナリオは再生エネルギーで強い企業にも取られる可能性大です。」と述べたのは、3年3ヶ月前の[2008年11月8日のブログ](#)です。

潜在能力のある日本人がなぜ、彼らの戦略に対抗する経済政策を打ち出せなかったのでしょうか。

経済数値に明るい人物がいなかったからですか？

私は、単に戦略的に物事を考えることが苦手な国民だからじゃないかと思うのですが、間違っていますか？

官僚は勿論ですが、政治家にもヒリヒリするビジネスの競争を体験した人がいないからでしょうか？戦略ってどういうことなのかわからないのではないのでしょうかね。政治ブログを書く人にはご立派な方が多いから同じ傾向があるとは思いたくありませんが…。

潜在能力のある日本人の誇り「[東大が30位？：秋入学はどうなった](#)」で、コラムニスト **David Brooks** さんのコラムが。「一方的な物の見方という欠陥がある。その思考パターンが何か、指摘してください」とテストを出しました。

Brooks さんは、共和党の支援者でオバマ大統領の政策が、incremental(増分という意味です)に過ぎずアメリカ社会を根底から変革する (transformative)ではないといちゃもんつけています。そのうちのひとつが、サービス産業が90%なのに、製造業の活性化とは一体何だというものです。共和党は抜本的な未来図を描いている(嘘です)のにオバマの一般教書には夢がないというものです。

「[Hope, but Not Much Change](#)」(By DAVID BROOKS January 26, 2012)

Brooks さんと Krugman 博士はほとんど同じ日にコラムを書いています。意見が大きく違います。互いに意識し合っていて面白いのですが、私が思う 欠陥は、Krugman 博士ならどう反論するか十分に意識して書いたとは思えないことです。相手がどう反論するか、それを考えて書かないと、折角の共和党 支援がぶち壊しになるということです。

この場合、オバマ大統領を支援する Krugman 博士は競争相手(competitor)なのです。博士が一般教書についてどう書くか、その予測をした上で論破しなければならぬのですが、オバマ大統領をけなすことばかりに気を取られて、何とも大雑把で荒っぽいコラムです。

案の定、Krugman 博士のコラムは、自動車の救済成功を取り上げ、製造業の雇用を増やすためには、スティーブ・ジョブズ(Apple)のアメリカでの雇用の小ささを例にとり、賃金でなく部品などのサプライヤーを含む産業クラスターが必要だという専門的なものです。同じ紙面で、両方を読むと質の差は歴然です。

「[Jobs, Jobs and Cars](#)」(By PAUL KRUGMAN January 26, 2012)

さらに、この二日後、やはりオバマ大統領を支援する Friedman さんが、製造業に関する企業経営者と政治家のもの見方が異なるという(私には)すばらしいコラムを書いています。

彼の視点こそ、今壊滅的な打撃を受けている日本の製造業に対して政治がすべきことを暗示していると思います。

「[Made in the World](#)」(By THOMAS L. FRIEDMAN January 28, 2012)

分水嶺は越えた。一月は **12万4千台売れた**。カムリは2万8千台も売れた。伸び率56%だ。

世界一を目指す力強いトヨタの宣言もあったし。

・・・豊田章男社長陣頭指揮の下でカムリは全車アメリカでの組み立てだよ。アメリカ人の雇用が増えるからオバマ大統領はハッピーだ。

日本の雇用はどんどん逃げていく。

結局は、このブログでしつこく書いてきたように、エネルギー・シフトのためのインフラ整備を国がやることによって製造業のイノベーションが活性化する。お利口な鳩山さんの炭酸ガス 25%削減が経済政策なんだと口を酸っぱくして言ってきましたが、何と京都議定書からの離脱ですものね。

日本民族のすごい潜在能力。日本は世界のへそ論。

聞き飽きた。

「本当は怖い裸のバンビ: Hard ass bambi from Chicago」(2012.02.05 Sunday/
<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=746>)

「つまんないという念が通じたのか [欠陥コラム 2 題](#)の後の Ms. Dowd は彼女らしさを取り戻したようだ。



(Wikipedia)

欠陥を指摘する前に、彼女らしさをまず見よう。

「[Who's Tough Enough?](#)」(By MAUREEN DOWD January 31, 2012)

「政治リスクが格段に大きなオサマ・ビン・ラディン殺害指令はオバマ大統領自らが下した。前面に出ないで後ろで“ごによごによ”言うだけのリーダーでなんかじゃない。オバマはリーダーそのものだ。骨のある男なのだ。」

副大統領バイデン(Joe Biden)が、大統領選キャッチ・フレーズ、“オサマ・ビン・ラディンは死に、GM は生き残った”を民主党員に刷り込むための演説だと皮肉一杯のコラ

ムである。

パキスタンへのドロン(drone)攻撃指示もやったし、オバマは今やタフガイだ。本当のタフガイというのは、難しいミッションを達成しても前大統領のブッシュみたい大騒ぎしない。あくまでもクール。

(フロリダ州でギングリッチ氏を大差で破り、いよいよ共和党大統領候補の本命になった)ロムニイ(Romney)も注意したほうがいい。タフガイは自分をタフガイとは言わないものだ。…他の人に言わせるんだ。(要旨のみ)

共和党応援なのかオバマ応援なのかわからないコラムになってしまったようだ。

オサマ・ビン・ラディンの住居を急襲したリアルタイム映像を見ていたオバマ大統領のビデオを見た人いますか？

政府高官数人が観ているのですが、オバマ大統領は端っこに座って、背中を丸めて身を乗り出している姿はとても主役の大統領とは思えないものです。

確かにオバマ大統領は自分の功績を大げさに言わない。

(後でも検討しますが、決断は戦略シナリオの一環です。戦略を本気で考えている人なら決断結果が上手く行って当たり前と思う傾向があるので、大喜びしない。逆にはしゃがない人は戦略力がある人ということができる。)

ただ、バイデンの演説は、彼自身の発案でもオバマ大統領の指示でもないと思われ
ます。アクセルロッドかブラウの差し金だろう。([オバマの戦略家たち](#)を読んでいる人ならそう思うだろう?)

その目的を、[一般教書](#)(リンク)から二つのパラグラフを引用して説明する。

The state of our Union is getting stronger. And we've come too far to turn back now.

As long as I'm President, I will work with anyone in this chamber to build on this momentum. But I intend to fight obstruction with action, and I will oppose any effort to return to the very same policies that brought on this economic crisis in the first place.

(就業数も増えてきた。財政赤字を 200 兆円削減する合意もできた。ウォールストリート
の責任を明確にして金融危機が二度と起きないようにもした。)アメリカの結団力は
強まっている。もう後戻りすることはできないところまで来た。私が大統領でいる限り、
このモメンタム(慣性)を高めるためなら議会の誰とでも共に戦う。しかし、反対するな

ら断固戦う。このような経済危機に陥らせた政策に戻そうとする どんな政策にも反対する。

You're the ones struggling with rising costs and stagnant wages. You're the ones who need relief. Now, you can call this class warfare all you want. But asking a billionaire to pay at least as much as his secretary in taxes? Most Americans would call that common sense.

(富裕層の税率アップの Buffet rule の適用に関して)生活費が高くなる一方、停滞する給与に苦勞しているのは国民だ。助けがいるのは国民だ。これを階級戦争と呼ぶなら呼んで構わない。しかし、億万長者にせめて自分の秘書なみの税金(率)を払えというのは階級戦争だろうか？そんなことは常識と思うアメリカ人が大多数ではないのか。

オバマ大統領は、すぐ妥協する骨のない奴ではないか、やっぱりウォールストリートの手先ではないか、という(根拠のない)批判に曝されてきたのも就任以来 3 年間の歴史である。

この一般教書での戦う姿勢を国民にわかってもらう、バイデンが紹介したエピソードはそれが目的です。そのシナリオを描くのはアクセルロッドとプラウです。

Ms. Dowd がキャンペーンのお先棒を担いでくれた。

これですよ、これ。



No more Obambi

Battle of Fort Hindman
from Wikipedia

(上の絵は南北戦争で北軍が勝利した戦いのひとつ: Wikipedia)

私は初めてだが、もう Obambi を使うのは止めてくれという読者もいるので、Ms. Dowd が以前発明した言葉なのでしょう。それにしても上手いものだ。きつい言葉の中にユーモアたっぷりな Ms. Dowd の特徴で私は好きだ。これに較べると問題の二つのコラムは若干違うと思わなかったですか？

あの二つは、他の人のオバマ分析(というか単に感情的な解釈)を基にオバマ大統領とミシェル夫人を攻撃しているだけだからつまらないのだ。なぜオバマがあのような言動をしたのか、彼らの立場に立った分析の欠片も見えない。

したがって、深みもない単に悪口だけのコラムになった。Mr. Brooks で指摘したのと同じである。

ただし、Ms. Dowd の一方的な見方が、逆にオバマ大統領の本質に迫る格好の情報を与えてくれた。

「[Showtime at the Apollo](#)」(By MAUREEN DOWD January 21, 2012)

Asked about his cool, aloof style and his unproductive relationship with John Boehner, Obama replied: "You know, the truth is, actually, when it comes to Congress, the issue is not personal relationships. My suspicion is that this whole critique has to do with the fact that I don't go to a lot of Washington parties. And as a consequence, the Washington press corps maybe just doesn't feel like I'm in the mix enough with them, and they figure, well, if I'm not spending time with them, I must be cold and aloof. The fact is, I've got a 13-year-old and 10-year-old daughter."

Ms. Dowd は、これを聴いて何とバカなことを言うと思った訳だが、別の見方が必要である。「議会の問題は個人的な関係にあるのではない」というオバマ大統領の根源的な物の見方が問題なのだ。

私は、これを(私の言う)無機の部分で政治を行おうとする基本姿勢と捉えている。アメリカをこういう国にしたいと考え、それを達成するための戦略シナリオを熟考すれば、後はそのためのプログラムを一つ一つこなすだけになる。

これは、基本的に無機の作業なのだ。

彼が共和党と妥協を重ねなければならなかったのは、妥協しなければ最終的なシナリオを放棄せざるを得ないからで、お高くとまって自分は不運と考えているからでもない。

妥協そのものが無機の作業の一部になっているからだ。実際、メディアから妥協を責められても、本人は一向気にしていないようだ。いい訳をしたことがないのも事実だ。ブラウやアクセルロッドは、気にするだろうが・・・。

こういう観点で読めば、レーガンとの比較も不適切、カーター前大統領も夕食を共にしたことがないという事実の見方も変わるはずだ。

彼が無機に捉えている典型が、中間選挙で敗れたミネソタの民主党候補に、**"In the end, this is for the greater good of the country."** (結果的には、国のためになることだ)というセリフに表れている。

オバマ大統領が敗北に shellacking (完敗) という言葉を発してもっともショックを受けたのは、誰もが知っている。

その時点で、議会運営の難しさ、一体それをどう乗り切るか、2012 年の選挙に勝つためにどうすべきか、彼の頭には敗北を今後の国のためにどう使うかという(戦略変更に)切り替わっていたのだ。

ここに、戦略的思考が異常なまでに鋭いオバマ大統領のメンタル・モデルが見えてくる。

政権からのリークがないためにメディアが困っていることは「オバマの戦略家たち」に書いた。それは今でも同じだ。

泡(バブル)の中の泡に包まれて仲良しのシカゴの取り巻きに囲まれてというのもこの点で見方が浅い。

戦略思考の高い大統領の下ではたらくためには、スタッフも戦略思考に優れていなければならない。下手なリークがあれば、戦略そのものに齟齬をきたす。

「ホテルに残されたメモ」(だから日本はこうなった:外交)は、多分意図的なリークと思われる。

アメリカは炭酸ガス排出量の数値合意を求めないという世界へのメッセージだ。

メキシコの COP16、昨年 COP17 までの経緯がその答えだ。

Ms. Dowd のお陰で、恐ろしいまでのオバマ政権の戦略力を知ることができた。

この視点がないから、決めの「2012 年の選挙は、どちらもメディアに不平をもらすオバマとギングリッチの戦いだ」という皮肉が面白くも何ともない。

フロリダで負け、さらに昨日ネバダでも負けたギングリッチが予備選挙を勝ち抜く可能性はほとんどないから、今読むと面白くないを乗り越えて「間抜けなオチ」だ。

2 番目のコラムの問題も同じだが、そこに見えるオバマ大統領はもっと恐ろしい。

「[Tension on the Tarmac](#)」(By MAUREEN DOWD January 28, 2012)

Tarmac というのは、飛行機が着陸した後に駐機する場所のことだ。

元々、このコラムは、クリントンに端を発した訳でなく、オバマ大統領の移民政策に異を唱えるブリューワーアリゾナ州知事(Jan Brewer)が、駐機場で指を振り上げてオバマ大統領に迫ったが、話し途中で「冷静に」と一言残してリムジンに乗った事件(?)だ。その映像がメディア に流れ「警官みたいで怖かった」という彼女の談話から始まったものだ。

「オバマの戦略家たち」で、プラウがヒラリー・クリントンのインディアン発言問題をキャンペーンに使う、オバマ候補から手ひどく叱れた逸話を紹介した。

ヒラリーサイドが、オバマが薬物をやっていたとか、イスラム教徒などとキャンペーンに使ったことに余程腹を立てていたのだろうが、逆切れしたヒラリーの腕に手をやって、そこでも「冷静になって」と言ったのと同じだと批判しているのだ。

私がオバマ大統領が恐ろしいと思ったのは、この言葉だ。

After his encounter with Hillary, he told advisers that it was the first time he knew

he could beat her because he saw fear in her eyes.

ヒラリーが恐怖を感じたのは、オバマの態度が彼女の予想とまったく違っていたからだ。

「ちょっとやりすぎてごめんね」(ヒラリー)

「いやお互い様だから気にしないで」(オバマ)

という程度の話で済むと思っていたのだろう。

オバマ大統領にとって、**敵は粉砕すべきもの**なのだ。

一回一回に勝負を賭けるぐらいの先読みをしている証拠だ。

話途中での切り上げは、相手が女性に限ったことではない。

昨年の財政赤字削減問題で、ペーナー下院議長との話し合いが決着しないと思った瞬間にさっさと会談を打ち切って walk out した。共和党はカンカンに怒って非難した。

このコラムの最後は、「オバマ大統領はディベートが苦手だから得意なロムニィとやれば共和党に願ってもないことだ」で結んでいるが、果たしてそうだろうか？

ブログでは、オバマ大統領就任直後、たったひとりで共和党議員集会に乗り込んで、質問のひとつひとつに時には考え込みながら丁寧に答えたことを書いたが、そのシーンを見ると決してディベートが苦手とは言えないだろう。2008 年のマケイン共和党大統領候補とのディベートも 3 戦 3 勝だった。

Ms. Dowd は Obambi と茶化すが、コペンハーゲン COP15 で、温家宝首相がブラジル大統領やインド大統領との極秘の会合の席に招かれもしないのに押しかけたあの豪胆さには驚いた。(「だから日本はこうなった: 外交」に詳細)

戦略性、緻密さ、そしてスパッと切る(政治家に必要な)冷酷さ。

Ms. Dowd は、これまでもう一つ見えなかったオバマ大統領の思考と行動様式を鮮やかに浮かび上がらせてくれるきっかけを作ってくれた。

「国家間の外交は首脳間の相互信頼と友情が生まれて初めて本物になる。だから首脳外交が外交の本旨なんだ。外交は外務省がやるものじゃない。首相官邸と大統領府がやるものだ。私はそういう意識を持っていたし、そうやってきた」

中曽根元総理大臣が今年産経紙上で語ったことだ。

「[首相に必要な人間的余裕](#)」(2012.1.4)

その通りだ。

ただ、中曽根氏の時代とは国際情勢も経済背景も異なる。同盟国すら経済競争では敵だ。

今、日本国の総理大臣に求められる相互信頼と友情のあり方は戦略性資質を抜きに語ることはできない。

オバマ大統領時代はあと4年続く。

この際立って優れる大統領と対峙することができる人はいるのか？

TPP 賛成でも反対でもいい。

賛成なら賛成で、反対なら反対で、相手にも有利になりながら日本の利益を優先する戦略を作れるかどうかだ。

石原新党ができて、大阪維新の会と協力してもすぐにそんな総理大臣は生まれない。威勢良く反米を掲げればすぐに潰される。小沢、鳩山がいい例だ。

今の政党政治を続ける限り、出れば打たれる。出なきゃ一方的に押し込まれる。

出ても一方的に打たれないのは、相手にも納得できる戦略立案力を持ち、圧倒的な国民の支持を受ける総理大臣を作ることしかない。

“いなげや”のオージー・ビーフもアメリカ産に変わった。

輸出を倍にすると宣言しているオバマ大統領だ。

あっという間に押し切られるぞ。

「[どうするプラウ？：米失業率低下と対日圧力](#)」(2012.02.08 Wednesday/)

<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=749>

先週金曜日、一月の就業数が24万増加して失業率が8.3%まで改善したという記事を読んだ時、真っ先に頭に浮かんだのがこれである。

「どうする [Mr.フラッフ](#)？失礼、Mr. プラウ？」

これおかしいよな。吹きだしたよ。fluff ってごみのことだろう？

fluff : コートなどにつく

ごみ (つまらないもの)



(注: プラウが誰か知らない人は「[オバマの戦略家たち](#)」参照のこと。裏の大統領と言われる実力者だ。)

記事にも、この増加は予想外なので、大統領選挙両陣営のキャンペーンのやり方が微妙に変わるだろうとある。

「[Jobless Rate Falls to 8.3%, Altering Face of Campaign](#)」(February 3, 2012)

Obama:

“The economy is growing strongly. The recovery is speeding up,” Mr. Obama said. But he conceded: “These numbers will go up and down in the coming months.”

「経済は力強く成長している。回復のスピードも早い。しかし、この数字(失業率)は今後も変動する。」とぬか喜びに終わらないように予防線を張ることを忘れない。

Romney:

“This recovery has been slower than it should have been. People have been suffering for longer than they should have had to suffer,” Mr. Romney said, at a supply company in Sparks, Nev., before Saturday’s caucus in that state. “Will it

get better? I think it'll get better," he added. "But this president has not helped the process. He's hurt it."

「この回復は、本来もっと早く来るはずだった。これほど長く苦しむ必要はなかった。良くなるかって？私は、良くなると思う。しかし、オバマ大統領はこうなるまで何の助けにもならなかった。彼が遅らせたのだ」と経済が引き続き良くなっても攻撃できる方針に変えてきた。

オバマ大統領の支持率がじわじわ上がってきていた時のこの失業率の改善である。未だに数字は高いが就任時並になったのは大幅な改善と言ってもいいぐらいである。大統領選挙の11月まで改善はないという見通しから、ブッシュ政権の負の遺産が如何に酷いものであったかを訴えるキャンペーンを展開してきた。

改善が続けばピント外れのメッセージになってしまう。

図に乗って経済政策が間違っていなかったなどと言った後に就業数が増加しなければ、相手は嵩にかかって攻撃してくる。

迷うところだ。

応援はすぐ出てきた。

クルーグマン博士は勘が鋭いだけでなく、現政権にとっては実に頼りになる存在と感心する。

「ちょっと経済が良くなったと思うとすぐに Job creation(就業機会増加)政策は不要という政策屋が出てくる。そんな奴に惑わされてはならない。今だからこそもっと Job creation 政策が必要なのだ。特に住宅産業の活性化に全力を挙げねばならない。緊縮財政などもってのほかだ。」というものだ。

「[Things Are Not O.K.](#)」(By PAUL KRUGMAN February 5, 2012)

それにしてもびっくりしたのは、[クライスラーのテレビコマーシャル](#)だ。

2分間のコマーシャル費用が約12億円だそうだ。

私がびっくりしたぐらいだから、当然共和党は、“やらせ”だと息巻いている。「救済で税金を貰った企業がそのお返しにオバマに有利な宣伝まで作って」と怒る。

というのは、クリント・イーストウッドのセリフがセリフだからだ。

「どうやって逆転する？どうやって一つになる？どうやってやっつける？俺たちの国は、一発のパンチで倒れっぱなしにはならない。すぐに起き上がる。俺たちが立ち上がった時、世界中がアメリカ車のエンジン音が鳴り響くのを聞くことになる。」

Mr. Eastwood, who narrates the new ad and appears among images of molten steel and city streets, says: "How do we come from behind? How do we come together? And how do we win?" He concludes, looking straight into the camera:

"This country can't be knocked out with one punch. We get right back up again, and when we do, the world's going to hear the roar of our engines."

In an e-mail, Mr. Eastwood said politics were not in the equation. "The ad doesn't have a political message," he said. "It is about American spirit, pride and job growth." Mr. Eastwood, a former mayor of Carmel-by-the-Sea, Calif., who usually voted Republican, has acknowledged recently having a political change of heart.

西部劇だね。

しかも、[一般教書演説](#) (リンクあり) とそっくり。

勿論、クライスラーもクリント・イーストウッドも政治に何の関係もないと言っている。イーストウッドは、アメリカン・スピリットを言ったまでだと。

この「コマーシャルを見たアクセルロッドは、すぐに Tweet したそうだ。「どんぴしゃのスポットだ」って。

David Axelrod, President Obama's chief political strategist, seized on the commercial almost immediately. He sent out a Twitter message shortly after it ran, declaring, "Powerful spot."

[「Republicans See Politics in Chrysler Super Bowl Ad」](#) (February 6, 2012)

私もこれはホワイトハウスの仕掛けとは思わない。やれば必ず漏れるものだ。むしろ、このアメリカの浪花節をきちんと理解しなければ駄目だ。「トヨタ・リコール事件」に書いたが、NUMMI を閉鎖せずに、「お世話になったから」とか臭いセリフでアメリカ人を泣かせればあんな酷いことにはならなかった。絶対 受ける。何を勘違いしてか、儲からなければ閉鎖、それがアメリカ流とばかりにいくと汚い野郎と思うのが一般大衆だ。当たり前だろう。日本だって同じだ。大 和魂だの、日の丸だのって息巻いても浪花節忘れたら駄目さ。地震と津波で助けられたご婦人が、自衛隊に申し訳なさそうに「どうもすみません、面倒掛けて」と深々とお辞儀して謝る姿に欧米人はびっくりしたそうだ。これが、浪花節の原点だよ。情というとちょっとニュアンスが異なる。わかんないかね～、浪花節だ よ・・・浪曲子守唄(カラオケ唯一の持ち歌)。

大統領選挙情勢について**最新のギャラップ報告**。

Romney is the front-runner for the GOP nomination at this point, but his opponents vow to continue to campaign vigorously against him in the primaries and caucuses to come. With the vast majority of GOP delegates still to be voted on, and with a history so far this year of rapid changes in Republicans' preferences for their party's presidential nominee, his nomination is far from a

sure thing.

ロムニーは共和党で先頭を走っているが、大統領候補になるかどうかはまだ未知数だそうだ。

At this time, Romney ties Obama among registered voters nationally, but the unsettledness of the GOP race makes head-to-head ballot tests with the incumbent president far from predictive.

Various structural measures continue to point to a tough environment for Obama this year.

ロムニーとオバマのどっちが勝つかの全国調査結果は、五分五分だが、最終候補者が決まっていない数字なのでまったく当てにならない。

Satisfaction with the way things are going in the U.S. is low, Americans' economic confidence is significantly more negative than positive, and Americans are much less likely to identify as Democrats than they were in 2008.

国民の今のアメリカに対する満足度は低く、経済について悲観的な見方が大きく、2008年(前回の大統領選挙)に較べて民主党離れが多いように思われる。

Obama's job approval rating appears to be improving at this point, and history suggests that his approval ratings in March will likely portend whether he is re-elected. The direction of change in Americans' views of the economy in the next several months will also be critically important.

オバマ大統領の支持率は改善しているが、歴史的に見れば3月の支持率が再選を決めることになりそうだ。また、今後数ヶ月の経済情勢を国民がどう見るかも重要な要素になる。

「[Where the U.S. Election Stands Now](#)」(February 6, 2012)

つまり、現時点では何もわからないということだ。今日、二つの州でセントラム氏が勝利した。ギャラップの言う通りだ。

どうするブラウ？

ここまで書いた状況にあなた自身を置く。ブラウになる。

なら、どうしますか？

大統領に代わって閣僚とどんな話もできる立場ですよ。

少しでも就業数を増やしたいでしょう？

どうします？

海外に圧力掛けさせますよね。アメリカ製品買えって。政府調達品が手っ取り早いで

すよね。納期なんか1年先でも2年先でも構わない。受注さえ入れば雇用は増えますから。

交渉に時間掛けられないから、圧力に弱い国を狙いますね。どこですかね。

宙ぶらりんになっている外交課題をさっさと処理して成功実績重ねたいでしょう？
もう始まっているようですが、基地問題を終結させますね。日本のぐだぐだにこれ以上付き合っているとまた Obambi ってばかにされますから。費用なんか負担すれば、また共和党に攻撃材料与えることになりから、一銭の損にもならないようにしますよね。

この他、どんなことでも10月までに実績として示せるものは全部やりますね。

失業率が低下したお陰で、対日圧力がより一層強まるという話です。

「Obambi 背水の陣:背筋を凍らせて笑いましょう」(2012.02.10 Friday/)

<http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=750>

経済指標改善を受けて、オバマ大統領の経済顧問は本年度の新規就業予想を 200 万に上方修正し、(大統領が提案する)経済刺激政策が継続すれば、今年末の失業率が 8%まで落ちると発表した。

Drawing on a string of improved economic data, advisers to President Obama have updated their forecasts in recent days and now project that the economy will create two million jobs this year if stimulus measures are extended, which could reduce the unemployment rate to about 8 percent by year's end.

Mr. Krueger said the administration's new outlook depended on the passage of Mr. Obama's economic stimulus proposals, chiefly an extension through the year of a temporary payroll-tax cut and assistance for the long-term unemployed.

「[Obama Advisers Offer Rosier Jobs Outlook](#)」(February 8, 2012)

勿論、共和党が反対するであろう給与所得減税を継続する(共和党議会に対する圧力にもなる)こと、さらにヨーロッパのデフォルト問題や中東での戦争が再燃しなければという前提ではある。

しかし、このような数字を出すのは、達成するという自信がなければ自殺行為になる。

「達成されるかどうか不透明な要素が多い」みたいな日本の報道になると思うが、惑わされてはならない。

自信とは何だろう？

共和党の協力もヨーロッパ・中東の状況は政権がコントロールできることではない。コントロールできないことに自信など置けない。

つまり、前回述べたようなことである。

政権だけでできることに主眼を置くという意味だ。

何も日本だけを相手にしている訳ではないが、その一環として対日圧力は確実に強くなる。

これは、円高が一番の理由だが、既に日本の報道にもあるようにトヨタが日本でのハイランダーの生産を止めてアメリカ・インディアナ工場で生産することを発表した。400 人の雇用増は来年になるとのことだが、オバマ政権としてはこの種のことが加速する手を打ってくるのは当然と見なければならぬ。

Toyota says it will expand its factory in Princeton, Ind., and add 400 jobs so it can build more Highlander SUVs.

The hiring and expansion will come next year.

Toyota says it will invest \$400 million in the factory to build 50,000 more Highlanders per year. The plant built more than 101,000 Highlanders last year. The company says it plans to stop making Highlanders in Japan and move that production to Indiana

After the changes, Toyota will be able to build about 255,000 Highlanders a year in Princeton and in China.

The Princeton plant in southern Indiana now employs nearly 4,000 people who make Sienna minivans and the Highlander and Sequoia SUVs.

Toyota sold more than 101,000 Highlanders in the U.S. last year, up nearly 10 percent from 2010.

[「Toyota to expand Indiana plant, add 400 jobs」](#)

実は、ここまでは一昨日書いた。ブログにアップしてもどうせ誰も読みやしないし・・・と放っておいた。が、今日、大笑いしながらアップすることにした。

みんな一緒に笑いましょう。背筋を凍らせて笑いましょう。

Toyota isn't alone either, with other Japanese automakers switching production of green cars from Japan to the U.S. For example, Nissan will begin manufacturing its all-electric Leaf in the U.S. within the year, and Acura has already moved production of its 2012 ILX Hybrid to the U.S.

トヨタだけじゃない。日本メーカーはエコカー生産を日本からアメリカにシフトする。日産リーフは、今年中に、Acura は既にアメリカに移した。

Finally, there's an element of national pride to take into account. With more Americans than ever conscious of where their next car was built, Toyota stands to gain the custom of U.S. citizens who will only buy U.S.-made cars.

All told, the movement of Highlander Hybrid production to the U.S. starting with the 2014 model year should be good for everyone, including Toyota and the U.S. economy. And that is a good thing.

(さまざまな要素はあるが)最終的には、アメリカ人のプライドを斟酌したということがある。アメリカ人は次に購入する車が何処で製造されるかについてかつてないほど敏感になっている。トヨタは、アメリカ製の車だけを購入するアメリカ人を獲得しようとしているのだ。結局、2014年モデルからハイランダー・ハイブリッドの生産をアメリカでやるのはみんなハッピーなのだ。勿論トヨタにとってもアメリカ経済にとっても。い

い事だ。

[「2014 Toyota Highlander Hybrid Will Be U.S. Made」](#) (February 9, 2012)

何がいい事づくめだ。くそつたれ。

日本の経済はどうなる？日本の労働市場はどうなる？日本の税収はどうなる？

何が新党だ。何が橋下だ。

バカ政治家ども。バカ評論家ども。メディアだって何でここまでぼんやりしてるんだ。

いいかい。

これが G.M.とクライスラーを救済し、トヨタ NUMMI 閉鎖をきっかけにトヨタ・リコール事件で日本車神話を崩壊させ、バイ・アメリカンの風潮を築き上げたオバマの 3 年がかりの大仕事の結果だ。

こんなことに誰も気付かずに……

このブログ目にした方、知り合いみんなに「[トヨタ・リコール事件](#)」を読ませてください！

以上です。

それでは、「お金を払って読むジャーナリストのメンタル・モデル:あつ、この顔は」の続きでお会いしましょう。

オバマ大統領を支える戦略家たち：パート2

<http://p.booklog.jp/book/45137>

著者：HideoJapan

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hzwatanabe/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45137>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/45137>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.